

金沢市公共レンタサイクル「まちなり」 の導入と今後の普及発展について

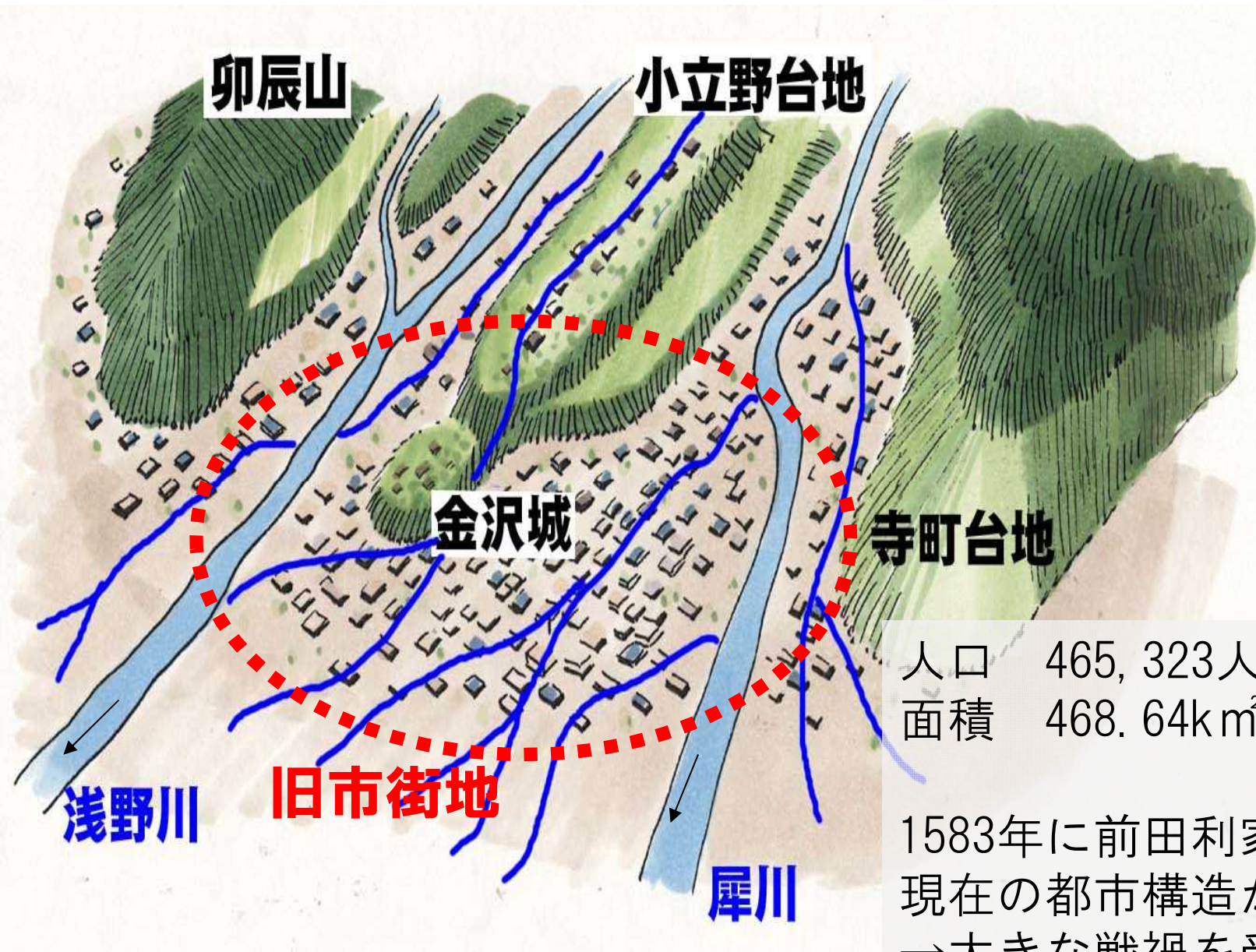


金沢市 都市政策局 交通政策部
歩ける環境推進課 今井隆治

目次

1. 金沢市について
2. 「まちなのり」導入までのまちなのり
3. 本格実施から現在まで
4. 見えてきた課題
5. 今後の展望

1. 金沢市について



人口 465, 323人 (H30. 10. 1現在)
面積 468. 64km²

1583年に前田利家が入城後に
現在の都市構造が作られる
→大きな戦禍を受けずに来ている

1. 金沢市について

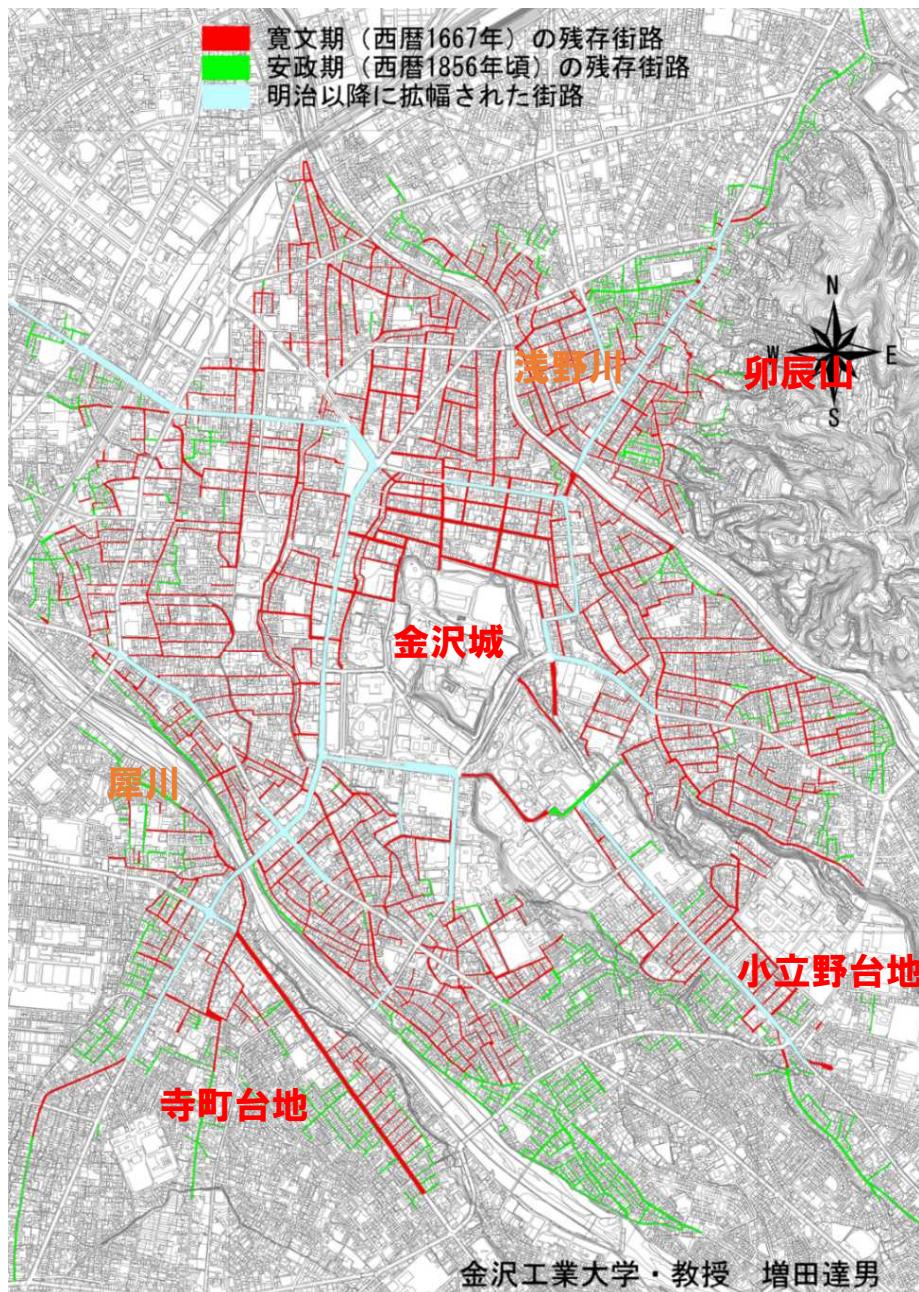


藩政期の絵図



現在の写真

1. 金沢市について



現在も残る 藩政期のまちなみ

現在の街路を寛文年間（1661～1672年）の絵図に重ねると約180kmが一致

幅員4m未満の細街路が市道の約20%

2. 「まちのり」導入までのみちのり



2. 導入までのみちのり



2-1. 金沢市まちなか自転車利用環境向上計画の策定

地球環境
問題

ライフスタイル
(健康・経済)

交通安全
(事故対策)



「自転車」が見直されている

- 公共交通としての活用（公共レンタサイクルシステム）
- 自転車に乗ること自体の価値が見直されている
- 自転車の交通秩序回復に向けた通行環境整備の推進 . . . など

平成23年3月 「金沢市まちなか自転車利用環境向上計画」策定

2. 導入までのみちのり



2-2. 計画の4つの柱

「自転車を安全・快適に利用できるまち・金沢」の実現を目指す

「はしる」・・・自転車通行空間整備

- 自転車走行空間の安全性を図る

「とめる」・・・駐輪環境整備

- 便利で使いやすい駐輪環境の創出を図る

「つかう」・・・自転車利用促進

- 公共交通としての自転車利用推進を図る

「まもる」・・・ルール・マナーの向上

- 自転車利用者のルール遵守・マナーアップを図る

2. 導入までのみちのり



「つかう」・・・自転車利用促進

当時の状況

- 自転車の利用推進に向けた施策を上位関連計画に位置づけ（公共レンタサイクルシステムの導入検討、自転車マップ作成等）
- 環境基本計画では、市民や事業者の取り組みとして「通勤・通学時や近距離移動には自転車を利用」「お客様に自転車や徒歩で来てもらうよう呼びかけ」を提示
- レンタサイクルは休日に不足気味（観光需要に追いついていない）



基本方針

- ◎市民や来街者が気軽に利用できる公共レンタサイクルシステムの導入について検討する。
- ◎自転車マップの作成や案内サインの設置等による自転車の利用促進に向けた情報発信や、公共交通機関との連携に取り組む。

2. 導入までのみちのり



2-3. 社会実験の実施

実験期間 平成22年8月21日～10月20日 (61日間)

運営時間 平日：7:30～20:30
休日：9:00～19:00

規模 ポート数：10箇所（有人管理）
自転車台数：100台

料金 基本料金：200円/日
1回の利用につき最初の30分無料
30分を超えると、30分ごとに追加料金200円



実施結果 のべ利用回数：21,622回（354.5回/日）
回転率：3.55回/日・台

➡ 平成23年度 「まちのり」本格実施へ

3. 本格実施から現在まで



3. 本格実施から現在まで

3-1.「まちのり」本格実施の目的(3つの効果)

①市民や来街者の利便性・回遊性の向上

◎北陸新幹線金沢開業(H27.3)を見据え、来街者の
金沢駅からの二次交通の充実

◎市民の足として都市内公共交通の補完

②まちなかの賑わい創出

③環境にやさしいまちづくり(クルマからの転換)

3. 本格実施から現在まで



3-2.事業の概要

主体	実施主体	金沢市
	運営主体	(株)日本海コンサルタント 公募型プロポーザル方式により選定 協定期間：平成24年2月1日～平成32年3月31日
期間	供用開始	平成24年3月24日
	運営時間	貸出：7:30～22:30 返却：24時間
規模	ポート数	無人ポート18箇所（導入時点）＋まちのり事務局
	自転車台数	155台
料金体系	基本料金	200円／日 1,000円／月 9,000円／年 1回の利用につき最初の30分無料
	追加料金	200円／30分
管理	認証媒体	交通系ICカードまたはパスワード
	料金收受	クレジットカード（まちのり事務局では現金可）
導入費	導入費	108,970千円
	財源	グリーンニューディール基金約88,888千円充当

3. 本格実施から現在まで



○ポートマップ



○タッチパネルは5カ国語対応



○20インチ普通自転車 3段変速

3. 本格実施から現在まで



○駅前まちなり事務局

貸出・返却場所、対面による対応、簡単な自転車メンテナンス、コールセンター等を兼ねた運営拠点

まちなり事務局の /
手荷物お預かりサービス※
まちなりをご利用されない方もお預かりできます！
おひとりさま2個まで | 1日利用 ¥300～
※事務局営業時間中(9:00～18:00)

○窓口を活用した付帯事業

まちなりスタッフブログ

金沢のプチ情報やまちなりの日常をご紹介します！

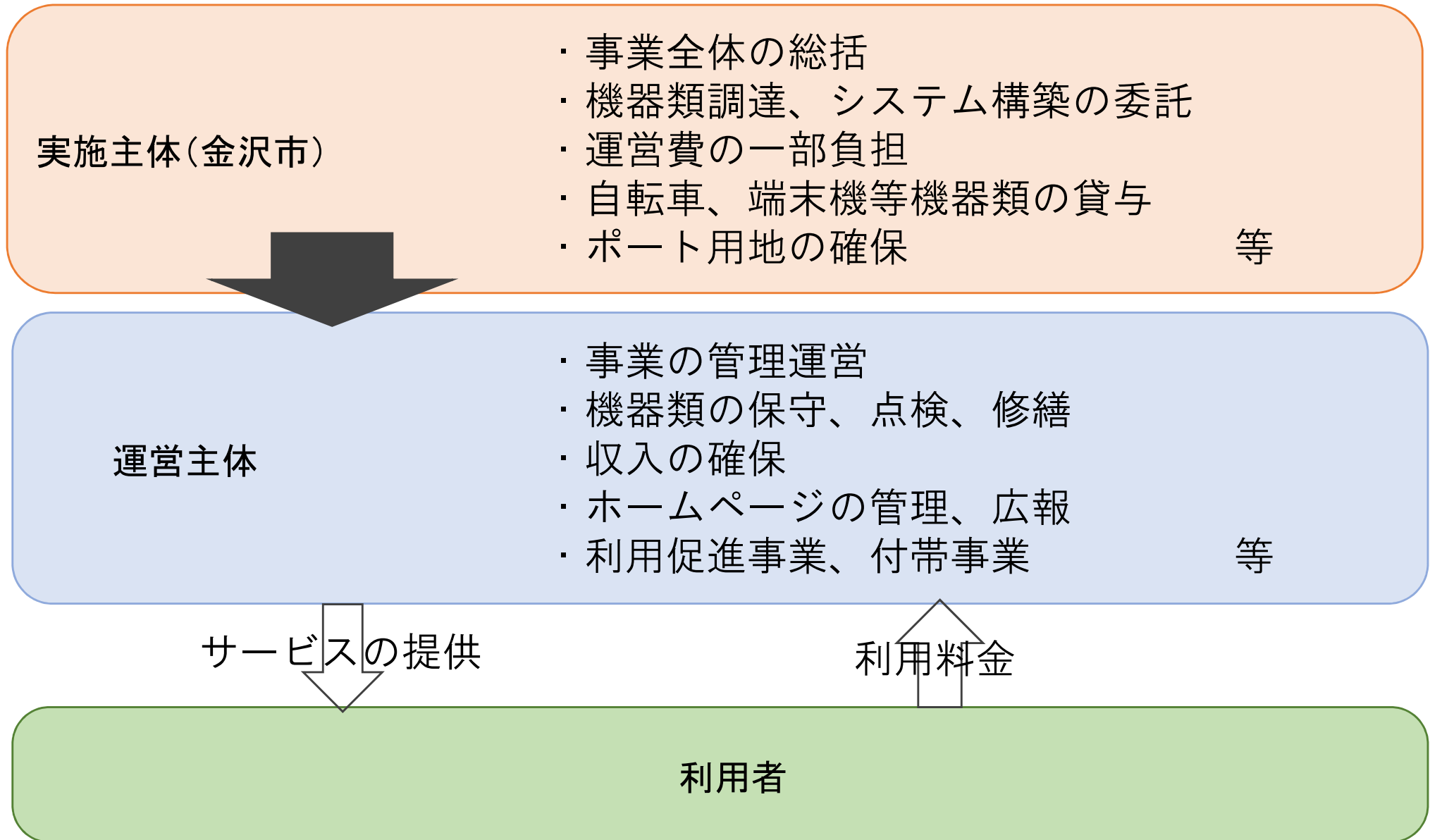
<p>ダイアリー 落葉が盛んになってきましたね</p> <p>2018.11.08</p>	<p>イベント情報 金沢駅前グルメはいかがですか？</p> <p>2018.11.07</p>	<p>ダイアリー 自転車での乗車通行が禁止になりました！</p> <p>2018.11.06</p>
---	---	--

○スタッフブログで地元のイベント情報や事務局の活動の様子を発信（基本毎日更新）

まちなりホームページ
<http://www.machi-nori.jp/>

3. 本格実施から現在まで

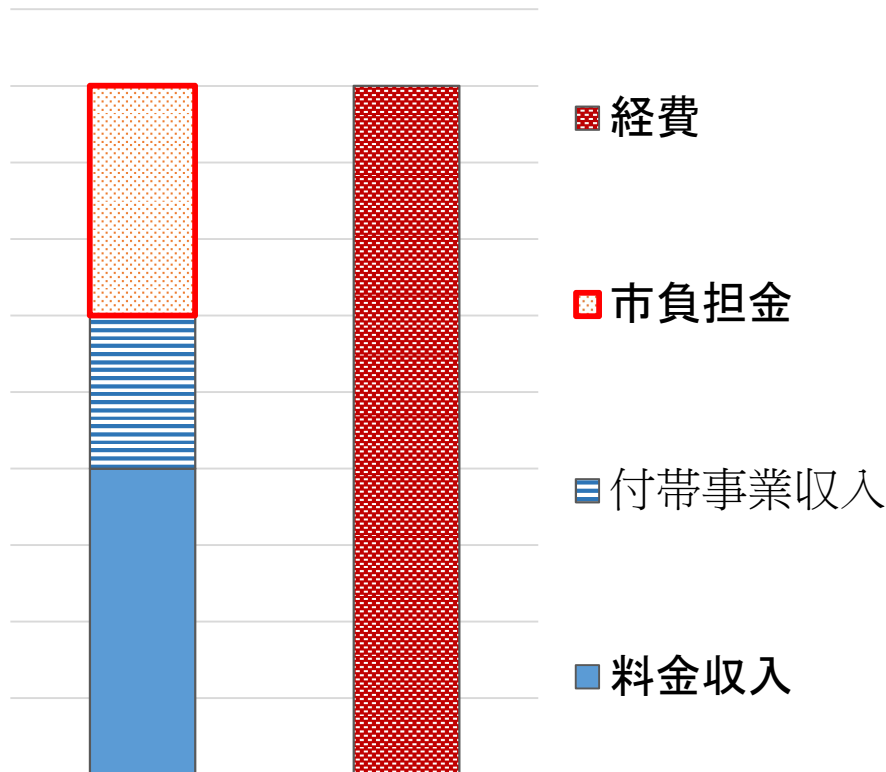
3-3.事業スキーム



3. 本格実施から現在まで

3-4. 運営負担金

○運営に係る経費と収入（付帯事業含む）の差額を上限として、
毎年度予算の範囲内で運営負担金を支出



- 主な付帯事業
 - 協賛金（ドレスガード広告）
 - 貸切タイプのレンタサイクルサービス
 - 手荷物預かりサービス
- 主な経費
 - 自転車再配置人件費
 - スタッフ人件費
 - 保守・点検・修繕費

3. 本格実施から現在まで

3-5.年表(主なもの)

平成23年度	H24. 3. 24 ポート18箇所、155台でスタート
平成24年度	ポート18箇所⇒19箇所 「第35回金沢市都市美文化賞実行委員会特別賞」受賞
平成25年度	「第31回まちづくり功労者国土交通大臣表彰」受賞
平成26年度	年間利用回数10万回達成 自転車全台更新(1回目)
平成27年度	ポート19箇所⇒20箇所
平成28年度	ポート19箇所⇒21箇所 自転車全台更新(2回目)
平成29年度	まちなりポートを金沢市公衆無線LAN基地として活用
平成30年度	H30. 8. 19 累計利用回数100万回達成



3. 本格実施から現在まで



3-6. 利用促進事業(主なもの)



○公共交通（鉄道）連携ツアー



○まちなか回遊ツアー



○商店街連携（にし茶屋街）



○ツエーゲン金沢（J2）コラボ¹⁹

3. 本格実施から現在まで

3-7. 利用実績(年度別)

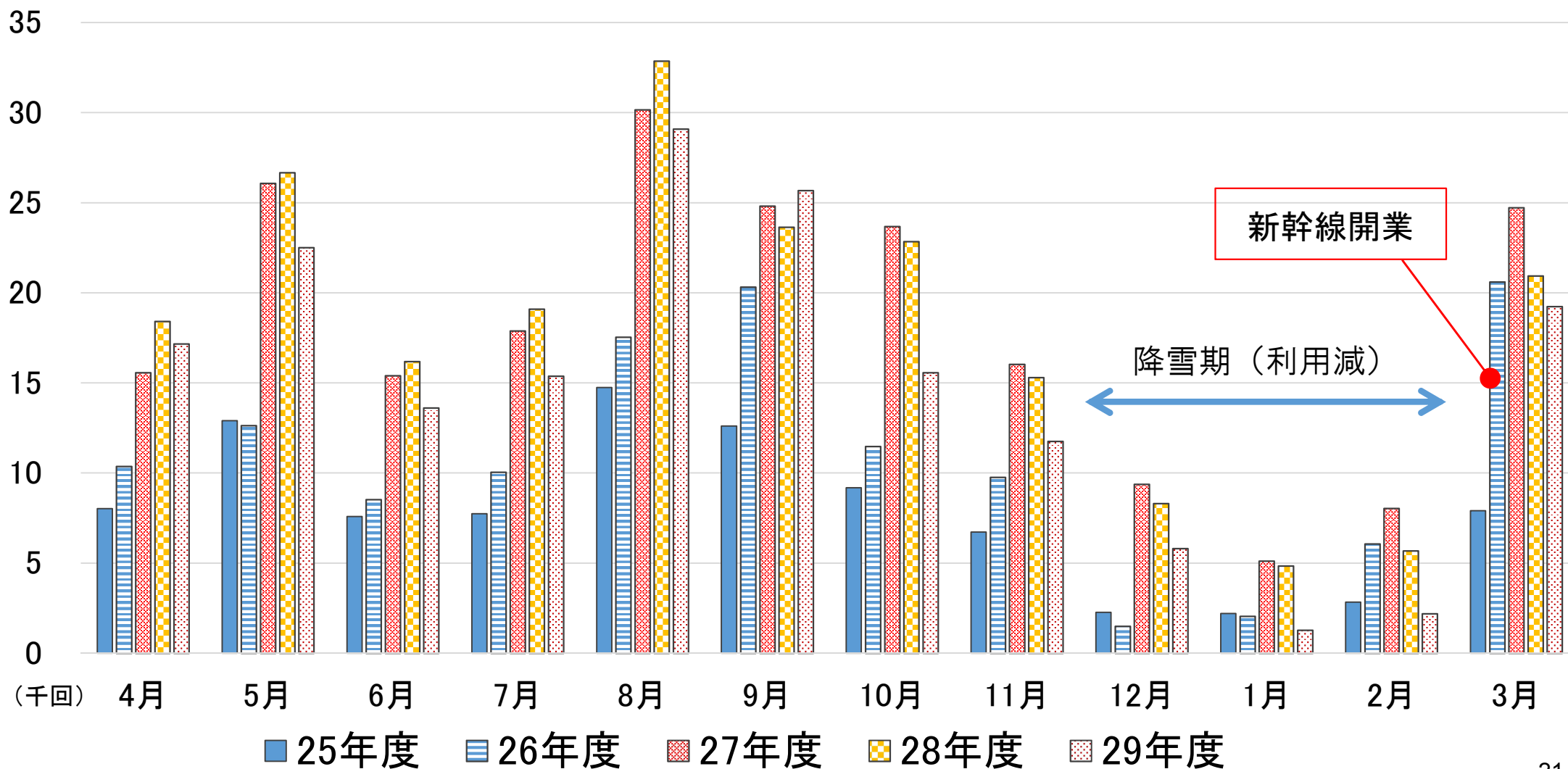
○導入時設定した利用回数目標は10万回／年（H26年度に初めて達成）

年度	利用回数	利用者数	
平成24年度	81,017回	30,127人	
平成25年度	94,703回	33,576人	
平成26年度	130,885回	43,992人	H27. 3. 14 北陸新幹線金沢開業
平成27年度	216,837回	70,569人	前年比160%超
平成28年度	214,770回	72,344人	
平成29年度	179,260回	60,718人	
平成30年度 (10月末時点)	128.426回	45.094人	H30. 8. 19 累計100万回達成

3. 本格実施から現在まで



3-7. 利用実績(月別)

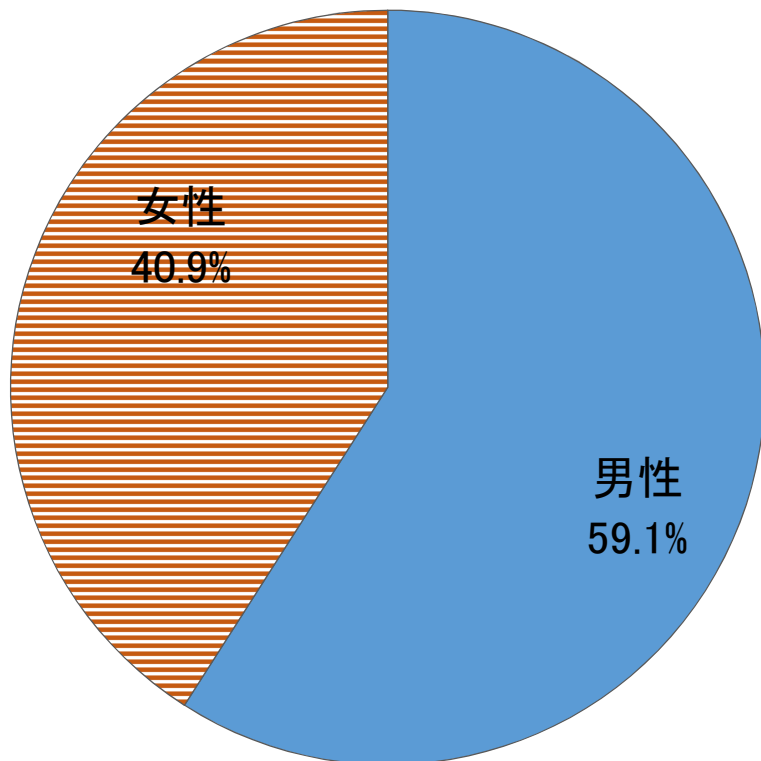


3. 本格実施から現在まで

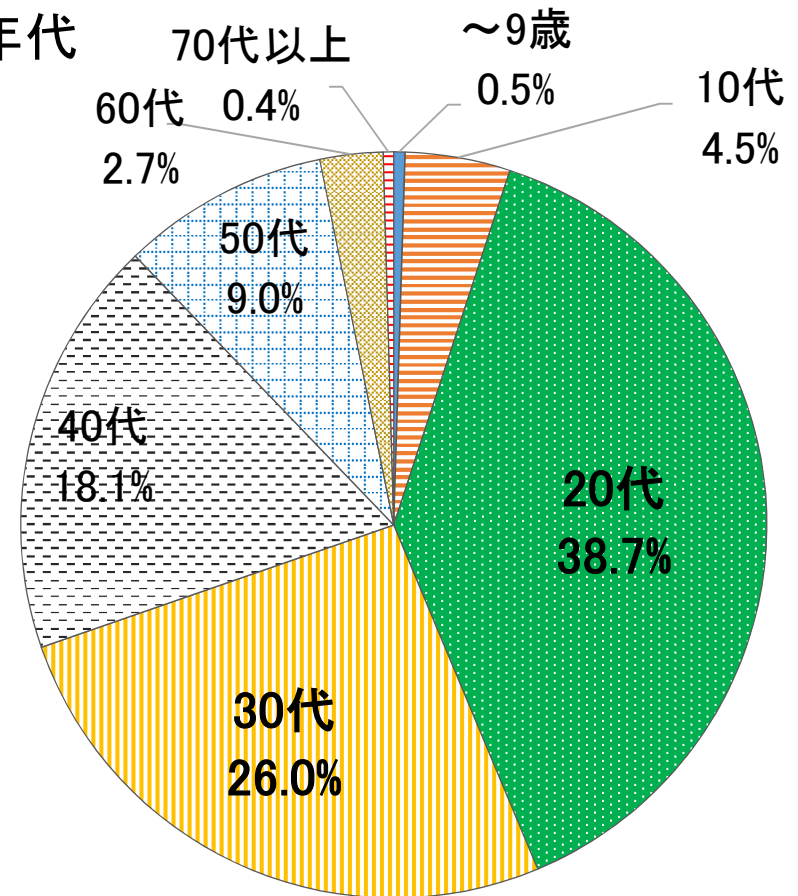
3-8.利用者の属性

調査期間：平成29年7月12日～平成30年3月31日まで、端末機タッチパネルでアンケートを実施（回答数25,015件）

①性別



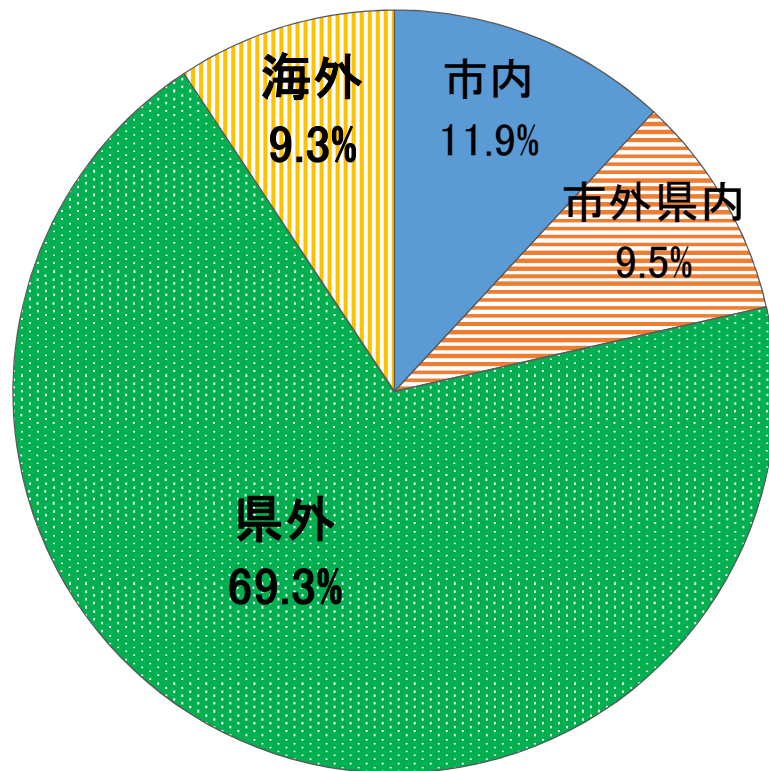
②年代



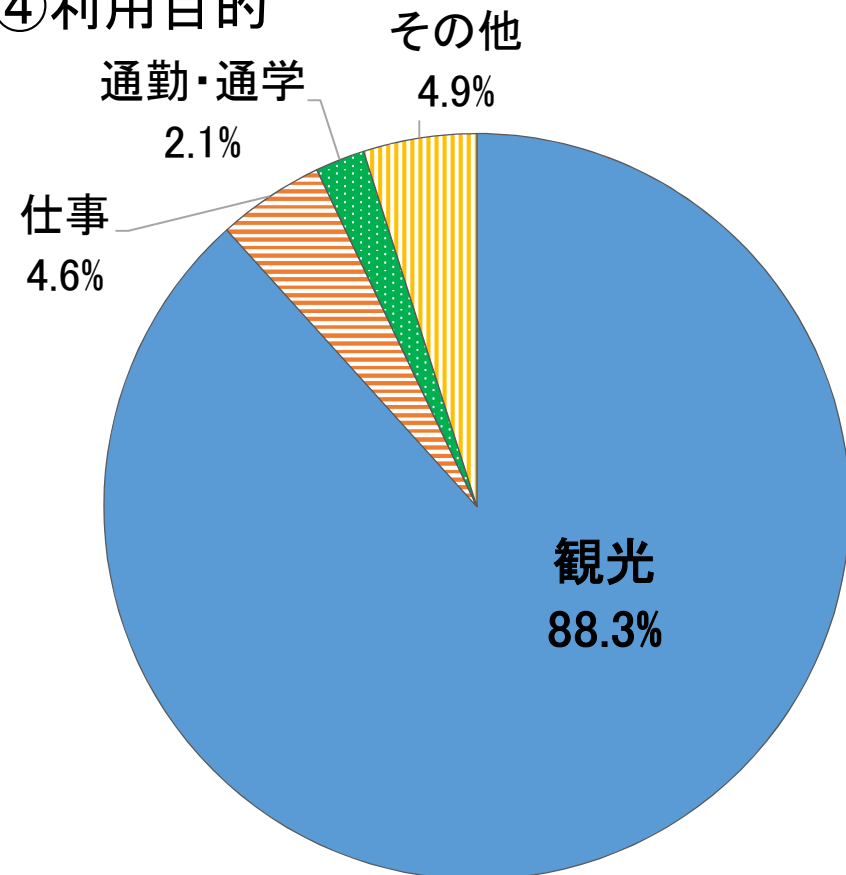
3. 本格実施から現在まで

3-8. 利用者の属性

③居住地



④利用目的



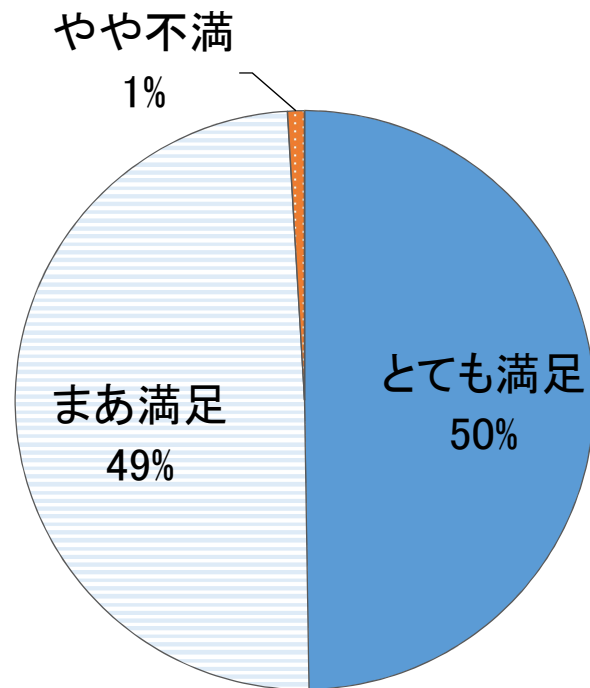
○利用者の多くは来街者、市民の利用は1割程度
 ○9割が観光での利用

3. 本格実施から現在まで

3-9. 利用者の満足度

調査期間：平成29年6月に主要なポートでアンケート調査（回答数263件）

○満足度



○利用してよかったこと(主なもの)

まちなかでの行動範囲が広がった	59%
他の交通手段より安く移動できた	40%
他の交通手段にない楽しみを味わえた	35%
他の交通手段より早く移動できた	26%

○不満に思ったこと(主なもの)

ポートの場所がわかりにくい	28%
自転車の台数が少ない	27%
30分という時間が短い	26%
ポート数が少ない	23%



4. 見えてきた課題

4-1. 北陸新幹線金沢開業の影響

新幹線開業による好影響

- ◎観光客の増加に伴い、「まちのり」利用者も大幅に増加
⇒H27は当初目標10万回を大きく上回る20万回超の利用

来街者の二次交通としてまちなかの回遊性向上に寄与
(導入の目的を果たしている)

一方で

- 大幅に増加した利用者に対して質の高いサービスを維持
⇒サポートスタッフ、再配置スタッフの追加配備
- 利用回数的大幅増により、自転車の消耗が加速
⇒2年で自転車更新が必要に

運営経費の増加

4. 見えてきた課題

4-2. 機器類の老朽化

○「まちのり」で使用している機器

路上端末機、専用の駐輪ラックを使用する「ラック式システム」を採用



路上端末機



専用ラック

- 金沢は雨や雪が多い
⇒ 石川県の平成28年年間降水日数
177日（全国1位）

総務省統計局資料より

- 昨季の記録的な大雪



年々修繕費が増加

4. 見えてきた課題

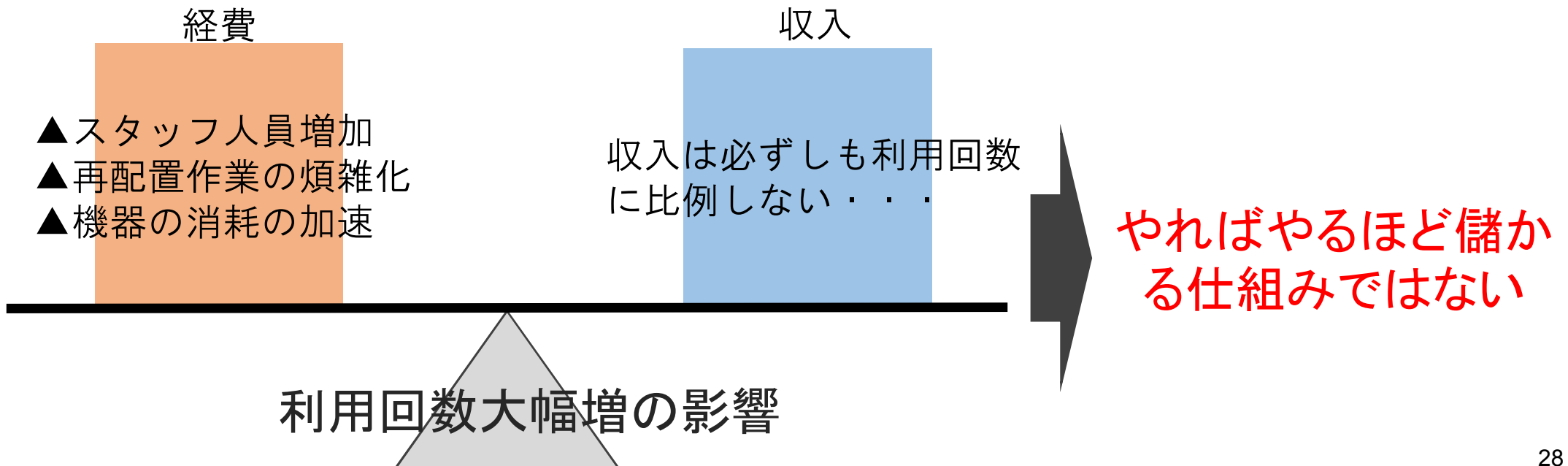
4-3. 料金体系

○「まちのり」の料金体系

基本料金	200円／日 1,000円／月 9,000円／年 1回の利用につき最初の30分無料
------	--

特徴

1回利用する度に課金される方式でなく、短時間の利用は無料にすることで限られた台数で多くの人が使えるようなシェア利用を促す仕組み



4. 見えてきた課題

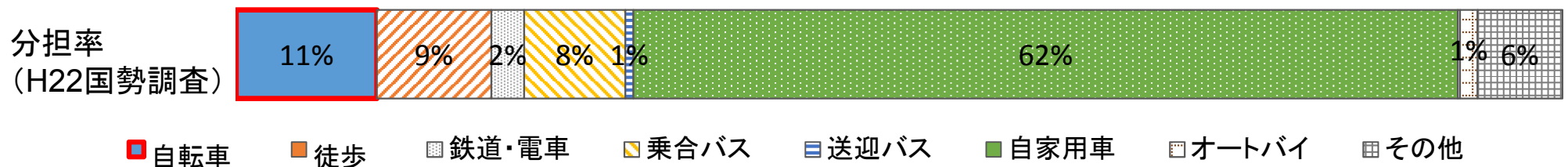
4-4. 市民利用の伸び悩み

○「まちなり」本格実施の目的

- ・ 北陸新幹線金沢開業を見据えた来街者の二次交通の充実 ⇒ ◎
- ・ 市民の足として都市内公共交通の補完 ⇒ 市民利用は全体の1割程度

○考えられる要因

- ・ もともと自転車分担率が低く、マイカー所有率が高い



- ・ まちなかでも市営駐輪場が無料で利用できる。
⇒ 自己所有の自転車を利用する人が多い。
- ・ エリアがまちなかに限定されており、どうしても観光地周辺にポート配置が偏っている。

4. 見えてきた課題

(番外) 便益分析の難しさ

都市交通機能や環境、経済の面で好影響をもたらしていると感じるが・・・



明確に便益を数値化することが難しい

(他の公共交通機関と比べると輸送量が極めて小さいことが要因の一つか)

交通的側面

- ・ 交通渋滞の緩和
- ・ 回遊性の向上
- ・ 放置駐輪の減少



環境的側面

- ・ CO2排出量削減

経済的側面

- ・ 観光地の売上向上
- ・ 移動費用の削減



5. 未来の展望

MACHI-NORI

5. 今後の展望



5-1. 新たな「まちのり」に向けて

現運営事業者との協定期間が平成31年度末で満了（機器類の耐用年数も経過）



平成29年度 外部の有識者を交えた「まちのりのあり方検討委員会」を設置
より利便性が高く、持続可能な事業としての新たな「まちのり」を目指す

STEP.1

- ・ 課題の整理
- ・ 他都市との比較
- ・ 全国的な動向の把握

STEP.2

- ・ 対象者、対象エリア等
基本的な方向性の明確化
- ・ システムや料金体系の
メリットデメリット比較

STEP.3

- ・ 次期「まちのり」の
あり方を決定

5. 今後の展望



5-2. 全国的な動向～シェアサイクルを取り巻く状況の変化～

平成22年頃の状況

- 自治体が関与するシェアサイクル事例はごく僅か
⇒海外の事例を参考にしているしかない
- レンタサイクルといえば「1日借りっぱなし」というイメージ
⇒料金体系など、利用者に対して丁寧な説明が必要
- 民間事業者でもビジネスモデルが確立されていない
⇒どのくらい経費がかかるのか、採算性はあるのか等、未知数な部分が多い

公共の動き

- ・導入自治体の増加
- ・政令市等では行政負担ゼロでの実証実験も

民間の動き

- ・ベンチャー企業等の参入
- ・完全民営で実施するビジネスモデルも登場
- ・中国大手企業の日本進出

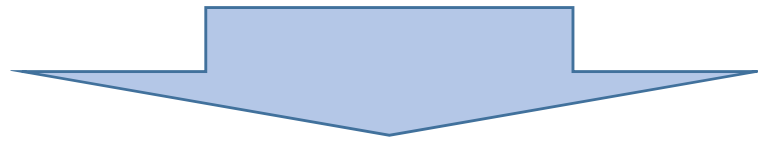
5. 今後の展望



5-2. 全国的な動向～シェアサイクルを取り巻く状況の変化～

民間事業の活発化に対する行政としての懸念

- ▲ 放置駐輪が増えるのではないかな？
- ▲ 景観にそぐわないデザインになるのではないかな？
- ▲ 過度な屋外広告物を掲示するのではないかな？
- ▲ 公益性、継続性は担保されるのかな？



自治体が主体となって「公共交通」として位置付けるのであれば、それぞれのまちづくり方針に沿うよう、一定の**制限を加えつつ**、運営事業者**にインセンティブを与える**仕組みが必要

5. 今後の展望



5-3. 基本的な方向性

具体的な事業内容の検討の前に抑えておくべき方向性の3つの柱

次期「まちのり」の基本的な方向性

①対象者(観光客 ⇄ 市民)

これまでの実績を踏まえて、**観光客を中心としつつ**、定期料金の設定や有用性のPRによって**市民利用も促す**

②対象エリア(まちなか ⇄ 郊外)

市民需要が未だ不透明なことから、**まちなか区域を基本とする**が、需要に応じてエリア拡大も視野に入れる

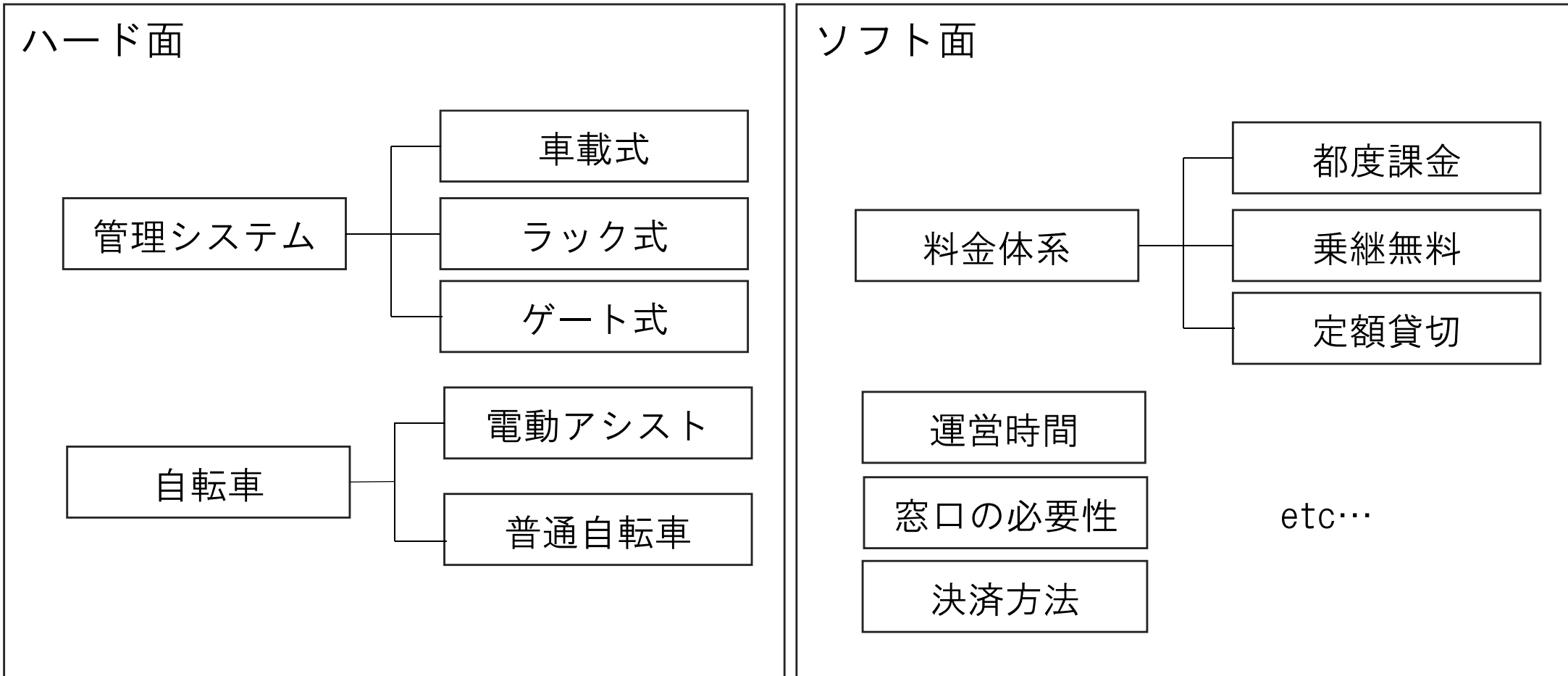
③運営方式(公設公営 ⇄ 民設民営)

民間の活力やノウハウを活かした運営としつつ、景観や交通施策等市のまちづくり方針に沿った事業となるよう、市も一定の財政負担を行う (**公設民営を維持**)

5. 今後の展望



5-4. 個別的検討事項



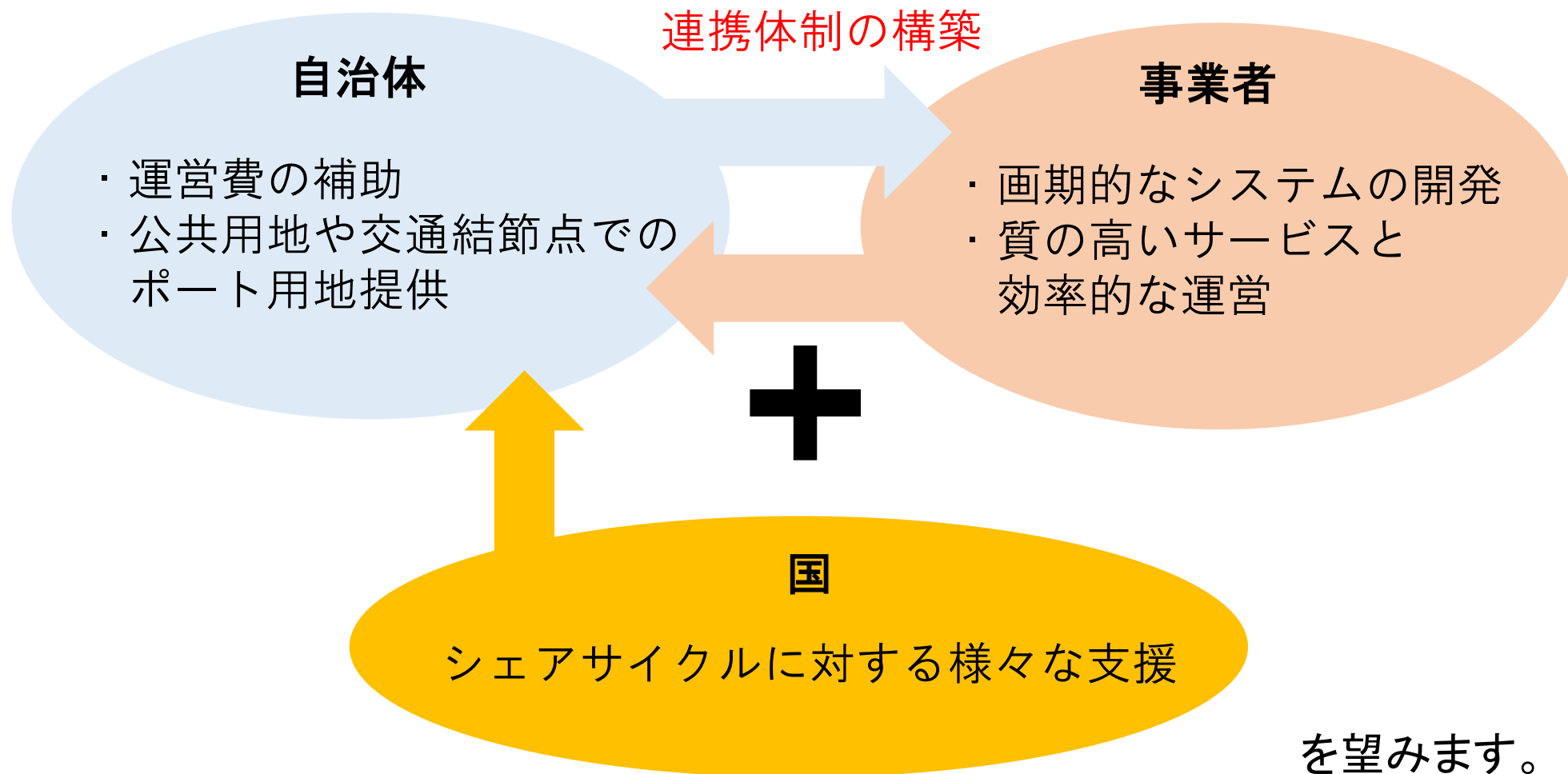
**多様な事業モデルの中から、地域の特性や事業の目的に照らし合わせて、
最適な事業モデルの構築が必要**

5. 今後の展望



5-5.おわりに

持続可能なシェアサイクル事業の発展を目指して・・・



ご静聴ありがとうございました。



【担当】

金沢市都市政策局交通政策部 歩ける環境推進課

〒920-8577

金沢市広坂1丁目1番1号（本庁舎3階）

電話：076-220-2111（代表） 076-220-2371（直通）

E-mail：arukeru@city.kanazawa.lg.jp